

# あたらしくはいった本 (令和3年4月 貸出開始資料から)

- 小説 白鳥とコウモリ(東野圭吾/著) 初詣で(佐伯泰英/著) 道をたずねる(平岡陽明/著) 新謎解きはディナーのあとで(東川篤哉/著) 本日も晴天なり(梶よう子/著) 正欲(朝井リョウ/著) 魂手形(宮部みゆき/著) ドキュメント(湊かなえ/著) なごり雪(新堂冬樹/著) 半逆光(谷村志穂/著) 沙林(帚木蓬生/著) 南紀殺人事件(内田康夫/著) クメールの瞳(斎藤詠一/著) 過ぎにし夏、マーズ・ヒルで(エリザベス・ハンド/著) 複眼人(呉明益/著)
- 随筆・詩などの文学 小福ときどき災難(群ようこ/著) こころの散歩(五木寛之/著) さよなら、ながいくん。(川上弘美/著) 命とられるわけじゃない(村山由佳/著) おしゃべりな人見知り(山本ゆり/著)
- その他の本 仮想空間とVR(往来/著) ヤマザキマリの世界逍遙録(ヤマザキマリ/著) 警視庁科学捜査官(服藤恵三/著) 子どもの算数、なんでそうなる?(谷口隆/著) フライパンひとつで魚のごちそう(ダンノマリコ/著) 扉はひらくいくたびも(竹宮恵子/著)



『白鳥とコウモリ』  
東野圭吾  
幻冬社



『初詣で』  
佐伯泰英  
文藝春秋



『過ぎにし夏、マーズ・ヒルで』  
エリザベス・ハンド  
東京創元社

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などのご協力をお願いします。

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

令和3年	日	月	火	水	木	金	土
6				1	2	3	4
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

## 少弐氏と渋川氏の筑前退去

応永3(1396)年、渋川満頼が九州探題(室町幕府の九州統治機関)に任命され、同年4月以降に九州博多に南向くと、翌年、筑前大宰府を拠点とする少弐貞頼と肥後菊池を拠点とする菊池武朝は、満頼に対して反旗を翻しました。同年12月、武朝は鎮庄軍の大友氏と和睦を結んだようですが、貞頼は同6年頃まで反乱を継続したとみられます。



平穏な日々だったのですが、貞頼の跡を継いだ少弐満貞が、応永32年、菊池兼朝とともに反乱を起こします。この前年、九州探題の満頼は隠居して京都に戻っており、反乱が起きたときには息子の義俊が九州探題職を継いでいました。義俊は貞頼らの攻撃に耐えきれず、肥前へ没落します。この反乱を鎮庄するため、同年7月、幕府は周防の大内盛見を九州に、下向させました。同年10月、

盛見は満貞を破ります。これにより、満貞は肥後菊池氏のもとに身を寄せ、満貞の子の小法師丸は対馬へと逃れました。

そうも、鎌倉時代後期、北条氏による鎮西探題(鎌倉幕府の九州統治機関)が博多に置かれた際、少弐氏は同じ筑前を本拠とすること、また、それまでの九州の御家人のトップとしての地位が脅かされることから、探題とは内在的な競合関係を持ち、それが探題を滅亡させる原動力となりました。南北朝時代以降に置かれた九州探題についても同様の競合関係があったことが、両氏の対立の要因であったといえるでしょう。

こうして、探題渋川氏と鎌倉時代からの九州の名族少弐氏は、ともに本拠とする筑前から退去することとなりました。その後、渋川氏は肥前綾部城を拠点として九州探題職を世襲するものの、かつての勢力を回復することとはなく、少弐氏は対馬や肥前に逃げたが、大宰府の奪還を目指してたびたび反乱を起こすものの、大宰府に定着することはできませんでした。そして、筑前は大内氏が支配する時代へと移行するのです。

その後しばらくは、反乱も起きず

元大宰府市公文書館 朱雀 信城